

## 令和7年度 愛媛県立西条高等学校 卒業式式辞 全日制

春の日差しが、卒業生の皆さん一人ひとりを優しく包み込むような今日の佳き日に、西条市長 高橋敏明 様、卒業後50年を迎えられました同窓生の皆様をはじめ、多くの御来賓の皆様の御臨席を賜り、愛媛県立西条高等学校第126回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより在校生や教職員にとっても大きな喜びでございます。巣立ちゆく卒業生の門出に花を添えていただき、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました259名の皆さん、卒業おめでとうでございます。心から拍手を送り、お祝い申し上げます。またご家族の皆様におかれましては、今日の日まで陰になり日向になって大切に育ててこられたお子様のご卒業、誠にありがとうございます。

さて、卒業生の皆さん。私と皆さんとは2年間のお付き合いでした。皆さんが何事にも一生懸命取り組み、学校を盛り上げようとする姿を私はずっと見てきました。皆さんの周りには、どんな時でも心を通わせ、固い信頼関係を結んだかけがえのない仲間がいました。皆さんはそんな仲間と共に学び合い、高め合い、支え合いながら大きく成長したのです。皆さんが仲間とともに乗り越えてきたたくさんの苦労や試練は、皆さんがこれからの人生を力強く歩んでいくための素晴らしい力を与えてくれたはずだと、私は確信しています。

ところで、皆さんは、「鳥人間コンテスト」を知っていますか。昨年47回を迎えたと聞きますから随分と息の長い大会です。「空への憧れ」は人類共通の夢だと思いますが、実は私自身の最初の夢は「パイロットになること」でした。小学生の頃、お小遣いを貯めてはバルサ材で飛行機を手作りし、飛ばしていました。バルサ材の軽やかな感触と、完成した機体が風を受けて浮かぶ瞬間のときめきは、今でも心に残っています。昨年度、鳥人間コンテストの滑空機部門で、強豪学生チームを退けて優勝したのは、全員が50歳代のチームでした。学生時代からこのコンテストにチャレンジし、社会人となった今でも出場を続けているのです。「あなたにとって鳥人間コンテストとは？」という質問に、優勝チームのキャプテンは、「大人の自由研究です。」と答えていました。なんと素晴らしい答えでしょう。若い頃の空への憧れの気持ちを忘れずに、現在も仲間とともにチャレンジを続ける彼らの姿に、私はとても感動したのです。

「空への憧れ」は、その先の「宇宙」への憧れに広がっていきます。そんな中、近年宇宙航空研究開発機構 JAXA は H3 ロケット試験機 1 号機など、打ち上げ失敗が続いていました。開発費約 2200 億円という大プロジェクトです。JAXA は、打ち上げ失敗の原因究明と対策を徹底的に押し進め、約 1 年後に打ち上げを成功させたときには、関係者が涙を流しながら抱き合って喜んでいました。

皆さんは、なぜ人間は宇宙を目指すのだと思いますか。空気はなく、音もなく、命を守る術の限られている宇宙。私が5歳の時、アポロ13号は月面着陸を目前にして、生還確率ほぼ1%というトラブルが生じたため地球に帰還を余儀なくされました。私が20歳の時、スペースシャトル・チャレンジャー号は打ち上げからわずか73秒で空に散り、さらに17年後コロンビア号も、帰還途中の大気圏で溶け、それぞれ宇宙飛行士7人の命が失われました。それでも、人は宇宙を目指し続けるのです。もちろん、そこには空や宇宙への憧れも当然あるでしょう。でも、私にはもっと根源的な理由があるように思えてなりません。

それは、私たちの持つ「知りたい・分りたい」という欲求なのではないかと私は思います。

「なぜ、そこに星があるのか」「私たちは、どこから来て、どこへ向かうのか」「宇宙に終わりはあるのか」こうした問いに向き合うとき、人は命をかけてでも前へ進もうとします。例え答えがすぐに見つからなくても、その「知りたい」気持ちを手放さず、歩みを止めない。それが、人間の強さであり、美しさであると私は信じています。皆さんご存じの月面着陸と火星探査を目指すアルテミス計画は、このような人間の「知りたい」という強い気持ちが形になったものだといえます。宇宙空間で起こりうるさまざまなリスクを念頭においた上で、失敗を恐れずに挑戦を続ければ、この計画は必ずや成功すると私は考えています。

また、民間企業も、国内で初めて宇宙空間に到達したロケットを開発しました。その会社社長の稲川貴大さんは、ある講演会で「皆さん、本当に未来は明るいのでしょうか。人口減少や環境問題、技術革新による社会構造の変化など、私たちの時代は大きな課題に直面しています。そんな時代に、皆さんは社会に出ていくのです。だからこそ、変化のスピードがかつてないほど加速するこの時代において、皆さんには、その変化に流されるのではなく、自ら変化を起こす側に立ってほしいと思います。」と若者に語っていました。確かに、この10年、20年で社会は大きく変わりました。スマートフォン、SNS、生成AIなどは、皆さんが生きてきたほんの十数年の間に生まれ、社会を変えてきました。同様に、10年ほど前は、民間でロケットを開発するなど「無理だ」と言われていました。法律も整っておらず、資金調達の仕組みも未熟で、何の実績もない中、稲川さんたちは挑戦したのです。何度も失敗しながらも、ついにロケットの打ち上げに成功しました。理工系の力とは、まさにその「無理」を「可能」に変える力なのです。そして、皆さんは西条高校での3年間で、その力を蓄えてきました。課題が山積し、変化が激しい時代だからこそ、SSHの探究活動で培った力を生かすことができる皆さんのような存在が必要となるのです。どうか、自分の「知りたいこと」を解明するため、自分の手で未来を切り拓いてください。変化を恐れず、挑戦を楽しみ、「無理」を「可能」に変えていってください。皆さんのこれからの歩みに、心から期待しています。

最後に、卒業生の皆さん。本日の卒業式は、新しい人生の始まりです。今後、重圧に押しつぶされそうになる時もあるかもしれませんが、その時は皆さんの周りの家族や友人、また私を含めた西条高校の恩師もきっと力になってくれるはずです。西条高校との絆を、これからも心の拠り所としてもらえるとても嬉しく思います。

西条高校を選び、共に歩んでくれたことに、心から感謝します。そして、校長の私に、たくさんの喜びと元気を与えてくれてありがとうございました。皆さんがワクワクすることを見つけ、その新しい世界で、笑顔で楽しく活躍されること期待しています。皆さんの挑戦や努力が、やがて世界を変える光になることを信じて、式辞と致します。

令和8年3月1日

愛媛県立西条高等学校長 山下和宏